

夏休み、私はある電車による人身事故のニュースを見てふと思いました。ニュース番組ではもちろん、通学中でも時々耳にする「人身事故」という言葉。なぜそんなに電車による事故が多発してしまうのだろうという疑問が頭の中に浮かび上がりました。調べてみると、事故が起きる主な原因は、駅のホームが暗いこと、踏切の無視、うつ病、疲労などだそうです。これらのことが原因で起きてしまった人身事故は、通勤・通学などで電車を必要とするさまざまな人々に大きな影響を与えてしまいます。大幅に遅刻してしまうと分かると、今日についてはついていない、とつい思ってしまう経験は私にもあります。一本でも早く電車に乗ろうと無理やり乗車する人もいれば、駅のホームで仕事場に遅刻の電話をする人もいます。そんな中で、人が無残に亡くなったにも関わらず、不謹慎で許しがたい行動をとる人もいます。ネットを見ていて最も目立ったのは、事故直後に撮った写真をSNS上に投稿している人々でした。

去年の9月に八王子駅で発生した事故では、発生直後に事故の現場をホーム上から撮影する複数の乗客がいたそうです。駅員が注意してもおさまらず、ついには駅構内に「事故現場の撮影はやめてください」というアナウンスが流れたそうです。それでも人々が撮影をやめることはなく、救急隊員が懸命に処理しているのを見て笑う人も数人いたと言います。

撮影した写真が投稿されたツイッターでは、「学校遅刻できて嬉しい」「事故の様子が見たかった」などと不謹慎なことを言う人がいる反面、写真を撮る人々を批判する声もありました。確かに人が間近で無残に亡くなることは滅多にないことなので、つい気になってしまうのも分かります。しかし、いくら赤の他人とはいえ、亡くなった方自身やその家族に対してあまりにも失礼な行為なのではないでしょうか。ここまで批判してきた私も、正直、なんでこんな日に事故を起こすんだ、と心ないことを思ってしまったことがあります。その人がどんな気持ちでホームに飛び込んだのかも知らず、そういった人への関心のなさが彼ら、そして私のいけないところなんだと感じ申し訳ない気持ちになりました。

そしてもう一つ、今年2月の事件を皆さんは覚えているでしょうか。当時17歳の女子生徒が、ネットで悪口を言われたり、彼女宛に「これからも貴方様をいじるようなことがあります、ご了承ください」と書かれた手紙が送られてくるなどといったいじめを受けていたというものです。先生に相談しても信じてもらえないという状況の中で追い込まれた結果、電車に身を投げ自ら命を絶ちました。彼女だけでなく、電車で自殺した人たちは、「痛いのが嫌」「死ぬのが怖い」という感情よりも、「死にたい」という感情の方が勝ってしまうほど追い詰められているのです。これらの「人身事故」というのはあくまで一例に過ぎませんが、人々の心ない言葉というものは様々な場面で人々の心に傷をつけます。今は誰でもネットで人を傷つけたり、好き勝手に物事を言ってしまうような時代です。悪気はないけれど、興味本位で事故現場の写真を撮ってしまうのは悪い行為なのか、また、私の意見は正しいことなのか、正直なところは分かりません。でも少なくとも、何気ない気持ちで心ない言葉を言う前に、これは人を傷つけてしまうものなのか、自分の行動は本当に正しいものなのかを考えてから言うべきではないでしょうか。